

## 中国東北(北満州) 鉄道の旅「ハルビン・長春(新京)・黒河」の記憶 6

宮岸 清衛

長春からハルビンへ、駅前には混雑していた。かねてから赤帽を頼んでいたのが実現、大きな荷物がないのは楽です。日本にまだ赤帽はあるのかな？ 寝台列車も少なくなり？

長春～ハルビン間は「和階号」情緒がなかったが、ビュッフェの隣だったためアルコール好きの我が連中はビュッフェのビール(啤酒)を全部飲んでしまった！

売り子のクーニャン(姑娘)は大喜び  
我ら一行日本人もいい気分！



街の混雑は活気がある



堂々の長春駅だが周辺は混雑していた経済盛期か



ポーターと呼んでいた赤いジャンパーを着て台車に積んでいたビールを全部飲み悦に入る我が友

ハルビンは列車を降りバスで郊外の平房にある「731 部隊跡」へ向かった。道路は立派に整備されていました。

731 部隊は、昭和 8 年(1933)、日本陸軍が中国ハルビン市近郊に設立した、細菌戦研究のための特殊部隊のことです。

関東軍 731 部隊と呼ばれており、正式名称は関東軍防疫給水部本部。石井四郎軍医中將を中心に、さまざまな生体実験を行ったとされています。



日本陸軍が生んだ“悪魔の部隊”とも呼ばれ、世界で最大規模の細菌戦部隊は、日本全国の優秀な医師や科学者を集め実験で殺された捕虜(「丸太」と呼んでいました)は 3000 人以上とも言われています。不思議なことに極東国際軍事裁判では 731 部隊関係者は誰も起訴されていませんでした。

森村 誠一の著書に収められて一躍有名になった歴史があります。

戦後その、731 部隊最後の組織的な部隊が我が故郷、金沢市小坂町の野間神社にあったと聞いており、興味が深まっていました。名誉院長 筋 昭三先生の紹介状を頂き、現「七三一細菌部隊罪証陳列館」館長 金成民 と我々 14 名は対談をしました。対談の中で 4 年後には世界遺産登録を申請するとのことでした。

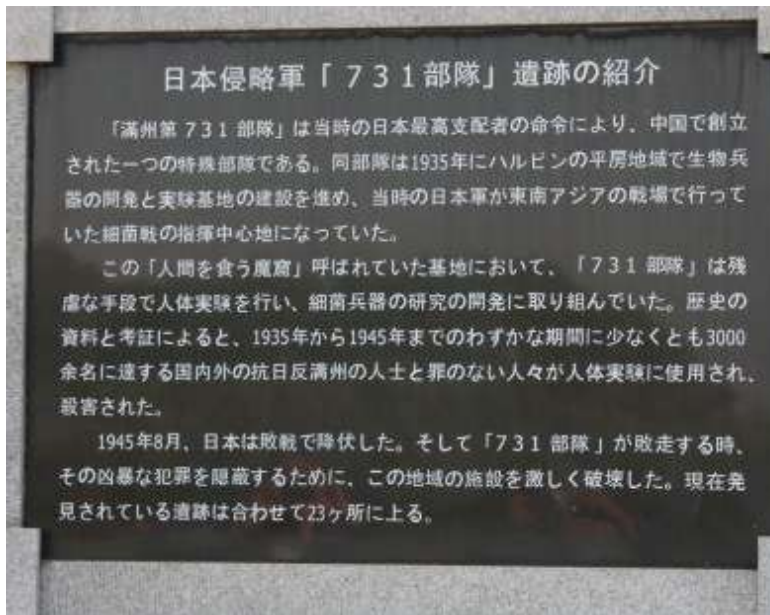
終戦直後野間神社では軍服を裏返してミシンを使って背広に仕立て直して、それを着て 3,3,5,5、と男が外出していたそうです。沢山の品物の中に「珪藻土」で作ったろ過装置の様な物もあったそうです。

能登は「珪藻土」の産地です、一考があります。

731 部隊の敷地は広く飛行場もあります。当時



付近は人家が少なく耕作地はまばらだったそうですが、今は立派な市街地です。



城北の看護師 2 人患者 2 人



著 蒞 昭三 城北病院名誉院長  
戦争で日本の医療はどのように影響を  
うけ、それがどのように国民を苦しめ  
たのか、狂気の時代をあらためてふり  
返る。「七三一部隊」などを黙認してき  
た日本の医学界にもメス。

### 森村 誠一 著 「悪魔の飽食」の一部

⑤石井は金沢医大の付近に「第 731 部隊内地本部」を開設。

#### 731戦後本部

終戦直後、1945 年 8 月 19 日のことである。金沢市小坂町東 1 番地、野間神社に軍属服を着た数人の男がやってきた。男たちは次のように向上を述べた。

「自分達は舞鶴港に引き上げた陸軍のさる部隊の者だが、金沢に入ったところ、どこにも泊めてくれる宿がなく難渋している。……男たちは部隊名を名乗らなかつた。総勢 20 人余り…  
…神社付近の氏子連に、物資の分配・放出を告げた。……部隊幹部による変装外出が続いた。……部隊が野間神社から撤退したのは 1945 年 9 月 22 日のことである。

野間神社こそは、第 731 部隊が米軍の目から隠れて設置した最後の本部だったので。



野間神社は現在も当時の面影をそのまま残して歴史を語っています。後世にも語り続けて世の中に役立てたいです。



25 日ハルビン最後のお別れ晩餐会は添乗員も皆で池田さんのハーモニカで歌を歌って「支那の夜」を楽しんだ。

鉄路の旅と銘して旧北満州へ約 1000KMの旅だったが和階号が運行されており街中も、ビルの連立で急な発達に翻弄された思いでした。日本の 20 年の停滞をつくづく実感させられる旅でした。

でも日本人が足跡を残した歴史の地に数ヶ所は挨拶出来たのは幸いでした。 おわり。